カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

○再生可能エネルギー事業への参画

2025年度主な完成工事

大白川小水力発電所建設工事

発注者	おおじらかわエネルギー合同会社
施工場所	長野県松本市 安曇/奈川
設置河川	一級河川信濃川水系梓川支流大白川
竣工時期	2025年11月

本事業では、河川内の巨石を活用し、自然環境と調和した堰を設置します。この堰を起点に水を取り込み、約1.5㎞下流に位置する発電施設で電力を生成。その後、発電に使用した水は再び川へと戻す計画です。

最大使用水量は0.77m³/s、総落差152.6m、有効落差142.2mという地形条件を活かし、最大出力869 kWの発電能力を実現します。年間発電量は5,557 MWhに達し、これは一般家庭約1,600世帯分の電力を賄う規模です。

＜竣工写真＞


取水口


発電所外部


発電所内部


水管橋

にかほ院内風力発電所建設工事に係る土木工事

発注者	株式会社生活クラブにかほ院内風力発電
施工場所	秋田県にかほ市院内字滝尻
竣工時期	2025年6月

風力発電所建設に伴う造成工事、基礎工事（1基）、付帯工事を行いました。最大出力は1,990kW、年間約450万～550万kWh（一般家庭約1,100～1,400世帯分）の発電を見込んでいます。

＜施工写真＞



主な現在施工中の工事

JRE酒田風力発電所　リプレース工事　土木･輸送建方

発注者	合同会社JRE新酒田風力	施工場所	山形県酒田市宮海地区

＜施工写真＞







風力発電設備5基の造成、地盤改良、杭工事、基礎コンクリート、輸送建方を行います。総出力は21,000kW、約1万世帯の年間消費電力の発電を見込んでいます。

水沢川小水力発電所建設工事

発注者　株式会社POWER　E NEXT
施工場所　山形県西村山郡西川町大字岩根沢

水沢川を水源とする水路式（流込み式）の発電方式の最大995kW（常時220kW）の発電所建設工事一式を施工中です。

＜施工写真＞





洋上風力拠点整備事業

山形県酒田市において、洋上風力発電設備の大型資機材ヤードに対応した地盤改良を含む岸壁築造工事を国土交通省より受注し、現在施工中です。

酒田港外港地区岸壁（−12m）築造工事

発注者　国土交通省東北地方整備局
施工場所　山形県酒田市大浜地先および高砂地

本工事は、酒田港外港地区岸壁（-12m）の構造物撤去工、本体工、裏込・裏埋工、陸上地盤改良工を実施するものです。

＜施工写真＞





○カーボンニュートラル実現に向けた目標

SBT認定取得

当社は、気候変動問題への対応を経営の重要課題と位置づけ、パリ協定が目指す「世界の気温上昇を産業革命前と比べて1.5℃に抑える」という目標に整合した、科学的根拠に基づく温室効果ガス排出量削減目標（SBT:Science Based Targets）を設定し、SBTiより2025年11月14日付で正式に認定を取得いたしました。

○若築建設グループの温室効果ガス排出量削減目標（Near-Term）

	スコープ1+2 （自社の事業活動による排出）	スコープ3 （サプライチェーンにおける排出）
基準年	2024年度	2024年度
2030年度目標	42.0%削減	25.0%削減

今後は、建設現場での省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入、環境配慮型資材の調達拡大、サプライヤーとの連携による排出量削減、環境技術の研究開発強化などを推進し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを加速してまいります。

＜認定証＞


Validation Statement
NEAR-TERM AND NET-ZERO SCIENCE-BASED TARGETS
SCIENCE BASED TARGETS

環境データ ～数字で見る環境保全活動～

環境目標

「2050年カーボンニュートラル実現に向けたロードマップ（2026年3月改定）」（一般社団法人 日本建設業連合会）が掲げる目標の達成に向け活動しています。

当社の目標および実績

施工段階におけるCO_2の排出抑制	2050年までに実質０（ゼロ）		
	2030年度までに2024年度比で42%削減（施工高当たりの元単位t-CO_2/億円）		
	工種	2025年度実績	2030年度目標
	海上土木工事	47.0t-CO_2/億円	31.3t-CO_2/億円
	陸上土木工事	37.1t-CO_2/億円	24.0t-CO_2/億円
	建築工事	9.5t-CO_2/億円	2.2t-CO_2/億円
建設副産物対策	建設汚泥の再資源化等率	99.9%	100%
	建設発生土の有効利用率	94.2%	100%

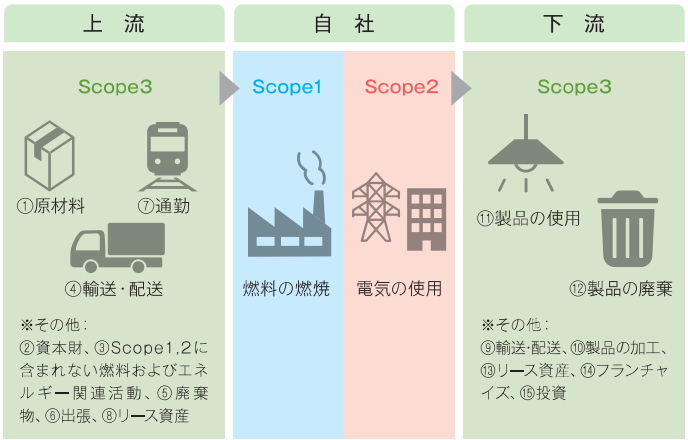
※ 施工段階でのCO_2排出量に関する当社の目標は、これまでの実績により3工種に区分して設定しています。
※ 建設汚泥再資源化等率：建設汚泥（発生木材）場外搬出量の内、売却や他工事利用を含めた再資源化量の割合
※ 建設発生土の有効利用率：工事で盛土等に使用した土量の内、他工事から搬入した発生土量と当該工事の掘削土等を転用した土量の割合

GHG排出量

Scope 1・2・3（若築建設グループ全体）

分　類	2025年度排出量 [t-CO_2]	2030年度目標 [t-CO_2]
Scope1	30,025	16,106
Scope2	809	644
Scope1+2	30,834	16,750
Scope3	327,236	314,857
合　計	358,070	331,607

Scope1　事業者自らが使用した燃料の燃焼による直接排出
Scope2　他社から供給された電力等による間接排出
Scope3　Scope1、Scope2以外の間接排出



Scope3 カテゴリー分類

分類	カテゴリー	カテゴリー名	2025年度排出量 [CO_2e-t]
上流	カテゴリー１	購入した製品・サービス	142,397
	カテゴリー２	資本財	2,065
	カテゴリー３	Scope１，２に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	3,796
	カテゴリー４	輸送、配送（上流）	1,582
	カテゴリー５	事業から出る廃棄物	7,001
	カテゴリー６	出張	641
	カテゴリー７	雇用者の通勤	250
	カテゴリー８	リース資産（上流）	0
下流	カテゴリー９	輸送、配送（下流）	0
	カテゴリー１０	販売した製品の加工	0
	カテゴリー１１	販売した製品の使用	148,982
	カテゴリー１２	販売した製品の廃棄	11,624
	カテゴリー１３	リース資産（下流）	1,082
	カテゴリー１４	フランチャイズ	0
	カテゴリー１５	投資	7,816
Scope3 合計			327,236

環境会計

環境会計は、「日建連　環境情報開示ガイドライン」（2025年3月）に準拠して算定しました。

環境保全活動の、経営との関連性や有効性を明確にし、機能の強化をめざしています。

対象範囲：国内事業所のみとし、関係会社は含みません。
対象期間：2025年4月1日～2026年3月31日
集計方法：環境保全コストは、19工事をサンプリング抽出し、完成工事高により全社換算しました。サンプル抽出した工事は、完成工事高全体の10%に相当します。なお、サンプリングの対象は、単独および当社が幹事会社である共同企業体工事です。

環境保全コスト

分　類	内　訳		費用（百万円）				
			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
事業エリア内コスト	公害防止コスト	水質汚濁防止、騒音・振動防止	2,422	1,473	1,666	1,383	1,931
	資源循環コスト	産業廃棄物・一般廃棄物の処理・処分	1,070	1,755	1,871	1,042	1,852
		小計	3,492	3,228	3,537	2,425	3,783
上下流コスト	環境配慮設計		4	4	4	4	4
管理活動コスト	監視・測定、環境教育や事業所周辺の緑化・美化などの環境改善対策		42	104	27	36	36
研究開発コスト	環境保全に関する研究開発		20	34	52	81	21
社会活動コスト	工事のイメージアップや地域の緑化・美化などの環境改善対策		22	30	68	29	6
環境損傷対応コスト	自然修復のためのコスト		22	35	38	36	17
計			3,602	3,435	3,727	2,612	3,867

環境保全効果

分　類	項　目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
事業エリア内効果	建設廃棄物リサイクル量	93,708t	64,271t	29,088t	46,085t	60,938t
	工事による温室効果ガス排出量	65,779t-CO_2	38,340t-CO_2	43,935t-CO_2	28,137t-CO_2	30,110t-CO_2
	オフィスの温室効果ガス排出量	809t-CO_2	714t-CO_2	636t-CO_2	743t-CO_2	724t-CO_2
上下流コスト	再生砕石	104,749t	113,873t	115,210t	236,142t	492,708t
	再生アスファルトコンクリート	14,936t	17,011t	5,798t	12,597t	5,517t
	グリーン購入（事務用品など）	23,307千円	24,559千円	24,966千円	15,057千円	13,287千円

マテリアルフロー

主要建設資材	
セメント	9,486t
生コンクリート	66,700m³
アスファルトコンクリート	5,517t
鉄鋼製品	2,826t
砕　石	492,708t

主要再生資材	
再生アスファルトコンクリート	2,328t
再生砕石	72,973t

エネルギー消費量			
	使用量	換算係数	熱　量
軽　油	10,293,299kl	38.0GJ/kl	391,145.36GJ
A 重油	1,020,163kl	38.9GJ/kl	39,684.34GJ
灯　油	9,866kl	36.5GJ/kl	360.11GJ
ガソリン	98,760kl	33.4GJ/kl	3,298.58GJ
電　力	2,802,795kWh	8.64GJ/ 千KWh	24,216.15GJ
		合　計	458,705GJ
		原油換算	11,835kl

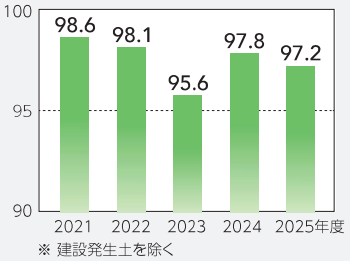
INPUT → 事業活動　技術開発　設　計　施　工　維　持 → OUTPUT

建設副産物排出量	
コンクリート塊	21,766t
アスファルトコンクリート塊	5,411t
建設発生木材	12,500t
指定副産物以外廃棄物	23,679t
建設汚泥	22,635t

再資源化量	
コンクリート塊	20,799t
アスファルトコンクリート塊	5,043t
建設発生木材	12,500t
指定副産物以外廃棄物	22,596t
建設汚泥	22,635t

最終処分量	
建設廃棄物	2,418t

建設副産物の再資源化率（%）



※ 建設発生土を除く

和倉港護岸復旧工事　現場見学会を実施

和倉温泉は北陸を代表する温泉地であり、温泉街に隣接する和倉港と和倉港海岸は観光と生活を支える重要な海上施設となっています。

本工事は、震災による被害を受けた和倉港と和倉港海岸護岸を復旧し、地域の安全と防災力を高めるとともに、観光資源としての景観を整える重要な復旧事業です。

2026年3月20日、石川県七尾市和倉町で開催された「和倉温泉復興牡蠣まつり」に合わせ、当社が施工を担当している和倉港海岸護岸復旧工事の現場見学会を実施しました。この見学会は、国土交通省と地元が連携して企画したイベントの一環として行われ、地域の皆様や観光客を含む300名の方々が参加しました。当日は、海上に石を積み上げて造った仮設道路を歩きながら、新たに整備された護岸を間近で見学し、担当技術者による工事説明を実施しました。普段目にすることができない護岸の復旧状況や建設現場のスケール感、使用機械等を見学することで、参加者が復旧工事を身近に感じるきっかけとなりました。併せて、設置前の護岸ブロックに応援メッセージやイラストを描く企画も実施し、地域との交流を図るとともに、復旧への思いを共有する機会となりました。

今回の現場見学会を通じて、地域の皆様の災害復旧現場に対する関心と理解の深まりが見られました。当社は今後も着実な施工の継続により、震災復興と地域の魅力向上への貢献を進めていきます。



現場見学会の様子



町の復旧に向けた応援メッセージ

工事の概要

本工事は、能登半島地震で被災した石川県七尾市の和倉港海岸において、護岸および防波堤を一体的に再構築するインフラ復旧事業です。施工については、まず海上に総延長約1270mの作業用仮設道路を構築し、大型重機が安全に稼働できる足場を確保。その上で、被災した構造物を取り除き、波の強度や地盤条件に応じて、大型コンクリートブロックの据付や、高強度な鋼管杭の打設を行い、耐震性・耐波性の向上を図る堤体を構築します。さらに、背後の埋め戻しや上面のコンクリート仕上げまでを一貫して施工します。工事期間中は汚濁防止膜の設置により濁りを管理し、海洋環境に配慮して施工を進めています。



着工前の現場の様子



2026年6月の現場の様子

C's Athlete 法人会員に入会しました

若築建設グループは、ESG経営の基本方針に掲げる「組織の持続可能性」と「社会の持続可能性」の実践の一環として、2026年9月より、障がい者スポーツ選手雇用センター「C's Athlete（シーズアスリート）」の法人会員となりました。

「C's Athlete」は2005年に設立された日本初の障がい者アスリート支援組織です。パラリンピックメダリストをはじめ、その舞台を目指すアスリートが競技活動と仕事を両立しながら新たな挑戦を続けており、企業・自治体・学校との連携を通じて、雇用や自立支援、地域社会の福祉向上にも貢献しています。

当社もこうした考え方に賛同し、法人会員への参画を決めました。挑戦し続けるパラアスリートの皆さまから学びながら、誰もが自分らしく力を発揮できる社会の実現に貢献してまいります。加入後、パラ卓球の辻村選手、ゴールボールの萩原選手・新井選手、元パラアスリートの信沢さんの4名が本社に来社され、競技への取り組みを直接お聞きし、多くの刺激をいただきました。

企業理念「内外一致 同心協力」のもと、当社は「C's Athlete」との連携を通じて、社内外が一体となり持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



左から信沢さん、辻村選手、長廻社長、萩原選手、新井選手



ゴールボール競技の模様

若松みなと祭り会場クリーンアップ作戦の実施

若松みなと祭りは、福岡県北九州市若松区で毎年開催される地域の伝統的な祭りで、海上パレードや花火大会など多彩なイベントが行われ、毎年約1万5千人が訪れます。

若松は当社発祥の地であり、現在も本店・九州支店を置く、当社にとって特別な土地です。その若松の街を大切にしたいという思いから、当社九州支店および九州築友会は、「若松みなと祭り」に先立ち、協力会社と連携した清掃活動を実施しました。草刈りやごみ拾いを通じて会場周辺の環境整備を行った本活動には、北九州市若松区の奥野区長および若松まつり行事協賛会の近藤会長を含め、総勢約500名が参加しました。

祭り当日は、当社も参加し、出し物を通じて地域の皆さまと直接交流を深める機会となりました。

当社は、こうした取り組みを通じて、発祥の地・若松をはじめとする地域社会とのつながりをこれからも大切にし、地域の発展に貢献してまいります。



奥野区長（北九州市若松区）挨拶



清掃活動の様子



参加者集合写真



若松みなと祭りの様子

わかちく史料館で海藻遊び展を開催

2025年9月20日、当社の見学施設である「わかちく史料館」にて、地域交流と環境教育を目的としたイベント「海藻遊び展」を開催しました。本イベントは、海洋環境教育活動を展開する任意団体「海あそび舎」が主催し、当社はその趣旨に賛同して、会場の無償提供等の開催支援を行いました。近年、海の生態系を支え、二酸化炭素の吸収源（ブルーカーボン）としても重要な役割を果たす「藻場（海の森）」の減少が課題となる中、港湾整備を担う企業として、地域交流と環境教育を推進する取り組みです。当日は地域の親子連れなど、120名を超える方々が来場し、賑わいを見せました。

体験型コンテンツで海洋環境を学ぶ

来場者は、北九州周辺の海藻や生き物をテーマにした「海の巨大パズル」、電子顕微鏡を活用して貝殻や海藻を見ることができる「顕微鏡コーナー」、宗像大島の海藻標本展示「海藻おしば展」など、多様な体験型コンテンツを楽しみながら、海洋環境の魅力とその保全の重要性を学びました。特に、SDGsをテーマにした有料ワークショップでは、マイクロプラスチックを使った「海キーホルダー作り」や「海藻ハーバリウム作り」が大盛況となり、子どもたちだけでなく保護者からも好評を得ました。


顕微鏡コーナー体験の様子


海の巨大パズル体験の様子

当社のCSR活動

港湾整備事業を担う企業として、持続可能な海洋環境の保全を支援することは当社の重要な使命です。本イベントは、地域の教育団体や環境保全活動との連携を強化し、次世代へ豊かな海を引き継ぐための取り組みの一環です。当社は今後も地域社会と協力し、環境教育や保全活動を推進してまいります。


海藻ハーバリウム



北九州マラソンへの協賛・参加

当社は2014年の初開催から北九州マラソンに継続協賛し、発祥の地である北九州市若松区に根差す企業として地域共創を推進しています。同大会は毎年2月に北九州市で開催される市民参加型のスポーツイベントであり、門司港レトロや小倉城など、市内の主要スポットを巡るコースが特徴です。2026年2月15日の本大会は、出走者1万人超、約4,000人のボランティア、沿道約31万人の応援があり、地域一体のイベントとなりました（いずれも主催者発表）。当社からは本社・東京支店・九州支店の22名が出走し、オリジナルTシャツを着用して臨みました。折り返し付近の門司港駅付近では、九州支店の社員がオリジナルサンバイザーで応援し、沿道の人々や参加ランナーに当社を目にしていただく場面づくりにつながりました。大会前々日から当日までの3日間にわたり開催された「北九州マラソンEXPO」では、企業PRブースを出展し、保有船「若鷲丸（グラブ浚渫船）」の操作を体験できるシミュレーターを展示。来場者と直接対話を行い、港湾・海洋インフラや当社の仕事を身近に感じていただく機会となりました。また、協賛に伴うメディアでのご紹介として、BS-TBS（全国放送）およびRKB毎日放送の特別番組内で当社のCMが放映され、公式ポスター・パンフレット、新聞記事にも社名が掲載されました。こうした北九州マラソンへの継続協賛・参加とEXPOでの対話を通じ、地域貢献と企業価値向上の両立を図ってまいります。





出走者集合写真



北九州マラソンEXPO
PR展示ブースの様子


九州支店応援団

不発弾処理における防護措置対応

当社は、山口県周南市の徳山下松港で発見された不発弾処理の防護措置を実施しました。本案件は、出光興産株式会社徳山事業所桟橋付近の海底で不発弾（長さ約1.2m、直径40cm、250キロ爆弾とみられる）が発見されたことを受けて実施したもので、施工完了後には出光興産株式会社様より感謝状を受領しました。

本案件の経緯と概要

2025年7月、当社は出光興産株式会社より桟橋浚渫工事を受注し、その施工過程で行った磁気探査により不発弾が発見されました。これを受けて、関係機関で構成する山口県港湾　水際・防災対策連絡会議において協議を行った結果、爆破の衝撃から桟橋などを守るための防護措置として「バブルカーテン」を採用することが決定しました。

当社は、山口県より防護措置に係る工事を受注し、バブルカーテンの資材搬入・組立、起重機船による海上輸送、設置・撤去に加えて、エアーコンプレッサーとエアホースの設置・撤去を実施しました。



バブルカーテン稼働の様子



爆破処理の様子【2026年3月26日の読売新聞記事より抜粋（周南市より提供）】

バブルカーテンの概要と効果

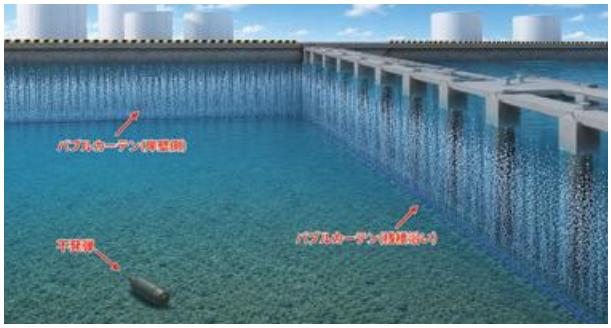
「バブルカーテン」は、海底に設置したエアホース管へ圧縮空気を送り、上昇する無数の気泡によって水中に「カーテン状の壁」を作る技術です。カーテン状の空気層を形成することで、水中爆破に伴う衝撃波の影響を緩和する効果があります。一般的に、バブルカーテンは海洋生物の保護を目的とした水中騒音の低減や、濁水などの拡散防止に使用されていますが、本工事では爆破の衝撃に対する防護を目的として採用されました。この取り組みは、国内における海中不発弾処理で初めての試みとなります。本工事では以下の設備を使用し、安全対策を徹底しました。

- **バブルカーテン総延長:420m**
- **コンプレッサー使用台数:78台**
- **エアホース総延長:13.4km**

バブルカーテンの設置作業後、海上自衛隊による不発弾の爆破処理が行われましたが、爆破に伴う衝撃波はバブルカーテンにより低減され、桟橋の損傷は確認されませんでした。その後、航泊禁止措置が解除され、石油製品の荷下ろしなどに支障が出ていた徳山下松港の港湾機能の正常化に貢献しました。



エアーコンプレッサー設置完了



バブルカーテンのイメージ図

今後の展望

本工事を通じて、バブルカーテンの海中不発弾処理時の防護対策に対する有効性が証明されました。今後も同様の事例が発生した場合においても、本案件で採用された技術が有効な解決策の一つとして活用される可能性があります。

当社は、引き続き事前調査や安全対策を徹底し、同様の案件に対して技術力を活かした対応を行ってまいります。

社会貢献活動

建設会社として、地域社会とのコミュニケーションは工事を円滑に進めるうえでも大切です。



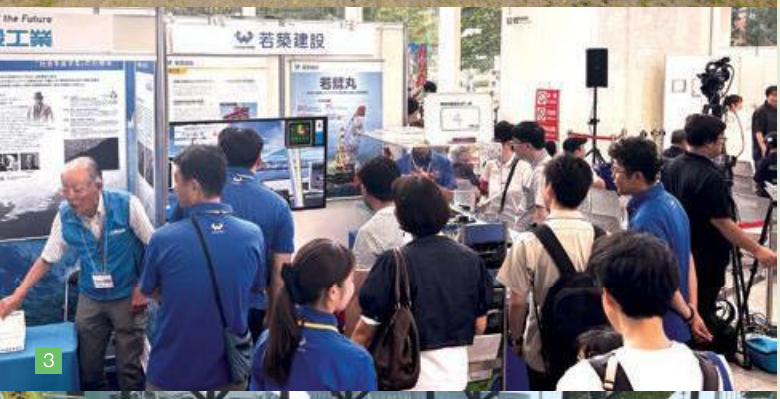
1



6



2



3


4



5

東京都　1　東京支店

本木自然地荒川水辺サポーター活動

荒川下流部は、年間1,500万人が訪れる憩いの場であるとともに、ヨシ原や干潟などもあり、動植物の貴重な生息環境となっています。しかし、外来種の繁茂や漂着ゴミの堆積などの問題にも直面しており、維持管理活動に毎年協力し、環境の保全に貢献しています。

千葉県　2　千葉支店

千葉港海岸検見川の浜清掃活動

連続25年継続しておこなった千葉市稲毛海浜公園人工海浜の清掃活動を引き継いで、2018年以降、隣接した千葉港海岸検見川の浜において、社員と協力会社から約30名前後が参加して清掃活動を行っています。

東京都　3　東京支店

東京湾大感謝祭2025

「流域3000万人の心を豊かにする『東京湾』の創出」を目指し、「東京湾の魅力を発見しよう～みんなで東京湾の未来を作ろう～」をテーマとして、東京湾再生への取り組み状況を展示しました。

宮城県　4　東北支店・石巻営業所

みやぎスマイルポートプログラム

宮城県がボランティア活動に意欲を持つ団体を「スマイルサポーター」に認定し、港湾や海岸を定期的に清掃や美化活動を行う制度です。当社は長年にわたり、東北支店と石巻営業所が登録し、活動を行っています。

宮城県　5　東北支店

美しい田園21　耕作放棄地解消活動

「NPO法人美しい田園21」に2021年度末より加盟し、耕作放棄地の解消活動や清掃活動に参加しております。2025年度は8月、10月に大根作付け、除草・消毒作業に参加しました。

大阪府　6　大阪支店

大阪マラソンクリーンアップ作戦

毎年継続的に続けている清掃ボランティアであり、「きれいなまち大阪」を目指す趣旨から、大阪市全域の団体・個人が参加している活動です。大阪支店では毎年参加しており、会社周辺の清掃活動を行っています。

それだけに止まらず、地域に根差す企業として全国各地の地域交流や貢献活動に積極的に取り組み、
自然環境の保全も含め、安心して快適に住み続けられるまちづくりに貢献します。



7



8

愛媛県 7 四国支店

面河ダム公園周辺清掃活動

水源地域の環境美化･保全活動として周辺の清掃活動を行いました。

愛知県 8 名古屋支店

名古屋港ポートアイランド クリーンアップ作戦

名古屋港ポートアイランドの高潮防波堤に漂着したゴミを清掃しました。伊勢湾へのゴミの流出削減を行うことで、漁業や様々な動植物の保護に貢献しています。

愛知県 9 名古屋支店

うみの安全デーin とこなめりんくうビーチ

海洋環境保全、地域コミュニティの活性化に寄与するため、本イベントに協賛、参加しました。訪れた一般の方々への会社紹介、清掃活動を行いました。

福岡県 10 本社

北九州ゆめみらいワーク 2025

北九州市の学生や一般の方々に対して、当社の魅力や取り組みを紹介するために本イベントに参加しました。当社は自社船であるグラブ浚渫船「若鷲丸」の模型等を展示し、操作体験を提供することで、建設業の魅力や当社の取り組みを広く知っていただく機会となりました。

福岡県 11 九州支店

北九州キャリアデザインプログラム

早稲田大学基幹理工学部1～2年生に向けて、史料館、若鷲丸の見学や、ドローン操縦体験等を実施しました。

大分県 12 大分営業所

餅ヶ浜海岸ビーチボール大会

大分県別府市で開催されたビーチバレー大会に、応援団も含め約20名が参加し、清掃活動も行いました。



9



10


11


12

安全マネジメントシステム

安全衛生基本方針

若築建設は、「人命尊重」の基本理念や「安全は企業活動の根幹である」のモットーのもと、「工事現場に従事する当社および協力会社の社員の労働に関係する負傷および疾病を防止すること」および「安全で健康的な職場と活動を提供すること」を確実にするために、次の事項を実践し、労働安全衛生マネジメントシステムを確立し、継続的な改善により維持し、工事現場における労働災害根絶への取組みを進めていきます。

効果あるリスクアセスメントを実践する

継続的改善に繋げる安全施工サイクル（PDCA）

システムのPDCA

- 安全マニュアル･安全管理の手引き策定･改訂（P）
- 全社における運用（D）
- 内部安全監査･パトロールによる評価（C）
- システムの見直し（A）

年度計画のPDCA

- 本社年度計画（P）
- 支店年度計画（P）
- 支店管内での運用（D）
- パトロール･内部安全監査で評価（C）
- 来期計画の検討（A）

工事のPDCA

- 施工計画の安全衛生管理計画（P）
- 施工計画の安全衛生管理計画の運用（D）
- 月間安全衛生管理計画表（P）
- 安全衛生協議会の開催（D）
- 作業安全打ち合わせ簿（P）
- 朝礼、TBM･KY活動の実施（P）
- 事故防止対策の実施（D）
- 統責者の巡視（C）
- 事故防止対策の見直し（A）

労働安全衛生マネジメントシステム

安全衛生基本方針に基づき、当社および協力会社の社員とその家族の皆さまに安心していただけるよう、安全で快適な職場づくりに努めています。

当社は、労働安全衛生の国際規格であるISO45001に準拠した労働安全衛生マネジメントシステムを効果的に運用し、労働安全衛生に対する社員および協力会社の意識のさらなる向上をはかり、全社一体となって労働災害絶滅への取り組みを進めていきます。

危機管理体制の確立

受注した全工事について「危機管理体制」を確立することとしています。具体的には、①全工事の「リスク」の洗い出しと緊急対策の検討、②緊急対策の発注者等との協議、③緊急体制の構築を行い、④協力会社への周知指導、⑤緊急対策の事前訓練の実施、⑥支店土木部、建築部および安全環境部との連携による「危機管理パトロール」を実施していきます。

また、「リスク」が公衆等へ及ぼす影響が大きいと思われる工事を「公衆災害対応重要工事」として選定し、本社土木部、建築部は安全環境本部と連携して、「危機管理パトロール」を実施していきます。

リスクアセスメントの実践

労働安全衛生におけるリスクアセスメントとは、作業における危険源を特定し、それによる労働災害の重篤度と災害発生の可能性を考慮してリスクを見積もり、対策の優先度を決めたうえでリスクの除去または低減の措置を講ずる手法です。

当社は過去に発生した労働災害を繰り返し発生させないことを目指したリスクアセスメントを実践しています。

①法令、社内ルールや過去の災害データベースに照らし合わせ、当該工事に潜在する危険源を特定する

②特定した危険源に対し、当該工事の現場特性を考慮のうえリスクの大きさを見積もる

③リスクの大きさに応じて対策の優先度を決定し、工種ごと、業者ごと、月ごとに関係者で現場の特性に合わせたリスク低減対策を検討し実施する

また、「危険源特定」～「リスク見積もり」～「リスク低減対策の検討」～「実践、記録」の一連の作業に関する「リスクアセスメント支援システム」を構築しており、リスクアセスメントを効率よく効果的に実施しています。



リスクアセスメント支援システム

建設機械災害防止運動

建設機械災害を防止するため「若築3·3·3運動」や「グーパー運動」「誘導なしでバックしない運動」を推進しています。

特に「若築3·3·3運動」はクレーンによる吊り荷地切り時の接触やはさまれ事故などの防止に重点を置いた運動としてすべての作業所に徹底し、災害防止に努めています。



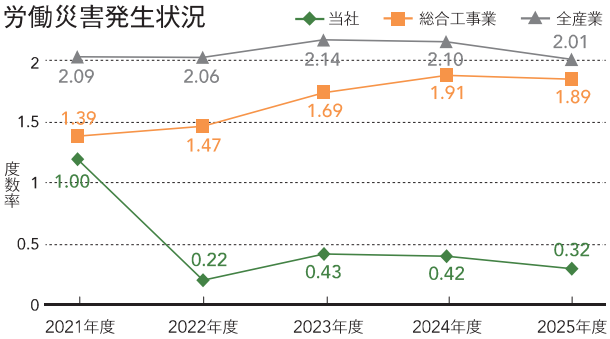


労働災害根絶への取り組み

災害防止重点項目は、長年にわたって蓄積してきた当社の災害統計をもとにして設定しています。

2025年度は、『墜落·転落災害』『第三者災害』(特に交通事故)』『建設機械に起因する災害』の防止を災害防止重点項目に設定し、安全衛生管理に取り組みました。

今後も、安全衛生基本方針に基づいて、「災害ゼロ」から「危険ゼロ」をめざし、さらに充実した安全衛生管理に取り組んでいきます。



安全衛生教育

本·支店勤務者含めた技術系職員を対象に安全衛生教育を実施しています。2026年度は国土交通省における工事事故防止の重点安全対策や過去に発生した事故事例をもとに関連法令等および防止対策などの教育を行いました。

また、労働時間の削減を目的とした働き方改革として見直した当社の安全管理の方法や、熱中症に関する法改正(重篤化の防止)の教育を行いました。


安全衛生教育

安全パトロール

社長、支店長などによる役員パトロール、安全環境部および協力会社との合同パトロールなどを定期的に実施し、労働災害防止の指導と安全意識の高揚を図っています。

会長　現場パトロール



会長　現場パトロール



会長　現場パトロール　工事概要説明

専務　現場パトロール



専務　現場パトロール



専務　現場パトロール　工事概要説明

社外取締役　現場パトロール



協力会社　現場パトロール



「SAFEコンソーシアム」に加盟

Safer Action For Employees

「従業員の幸せのための安全アクション（SAFE）コンソーシアム」として、全てのステークホルダーが一丸となり、働く人と、全ての人の幸せのために、安全で健康に働くことのできる職場環境の実現のため取り組んでいきます。

SAFE
Safer
Action
For
Employees

防 災

災害対策

当社は、災害が発生した際には、「基礎的な事業継続力（BCP）」の認定制度において運用している「災害対策手順書」に基づき、建設会社として災害復旧活動を迅速に行います。

また、定期的に防災・消防訓練を実施し、初期消火や救命救急のスキルアップを図っております。

基本方針

- 人命の安全確保を最優先する
- 事業活動の維持・継続、早期復旧を図る
- 地域社会の防災活動や被災時の復旧、支援活動に積極的に取り組む

各事業所ごとに「防災責任者」を配置し、防災訓練の実施、防災対策の周知、事業所における防災設備の設置・確認、備蓄品の整備を行っています。

また南海トラフ地震臨時情報発表時などにおいては、社長自らが「災害対策本部」の本部長として「現地（支店）災害対策本部」との連携を取りながら、社員・その家族の安否確認・安全確保、地域との緊密な連携を図り、災害協定に基づく復旧作業の実施、その他の応急・復旧業務、事業継続（BCP）の体制を確保し、建設業者として最大限の地域貢献を果たしていきます。

「災害対策本部における連絡等」の訓練実施

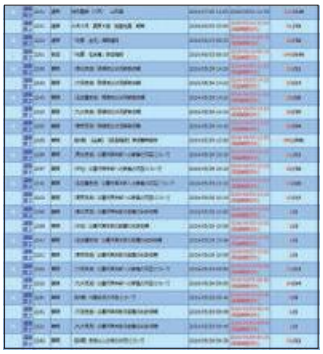
防災マニュアルに基づき策定された「全社防災計画」に従い、本社・支店における「災害対策本部立ち上げ」と「災害対策本部会議」の実践さながらの訓練を実施し、有事に備えています。



「災害対策本部における連絡等」の訓練実施

安否確認システム（エマージェンシーコール）

エマージェンシーコールとは、地震・津波警報・特別警報といった自然災害や緊急事態が発生した場合に、社員のスマートフォンなどへメール等を自動で一斉配信し、安否確認を迅速・効率的に行うシステムです。平時の訓練を繰り返し実施し、実際の自然災害の際に活用され、効果を上げています。



安否状況確認1



安否状況確認2

防災・消防訓練

当社では災害・火災発生時や、傷病者への迅速・適切な対応のため、所管消防署の指導のもと、定期的に防災・消防訓練を行い、初期消火や救命救急のスキルアップを図っています。

多くの社員が救命講習を繰り返し受講し、AEDや心肺蘇生の技術を習得しています。

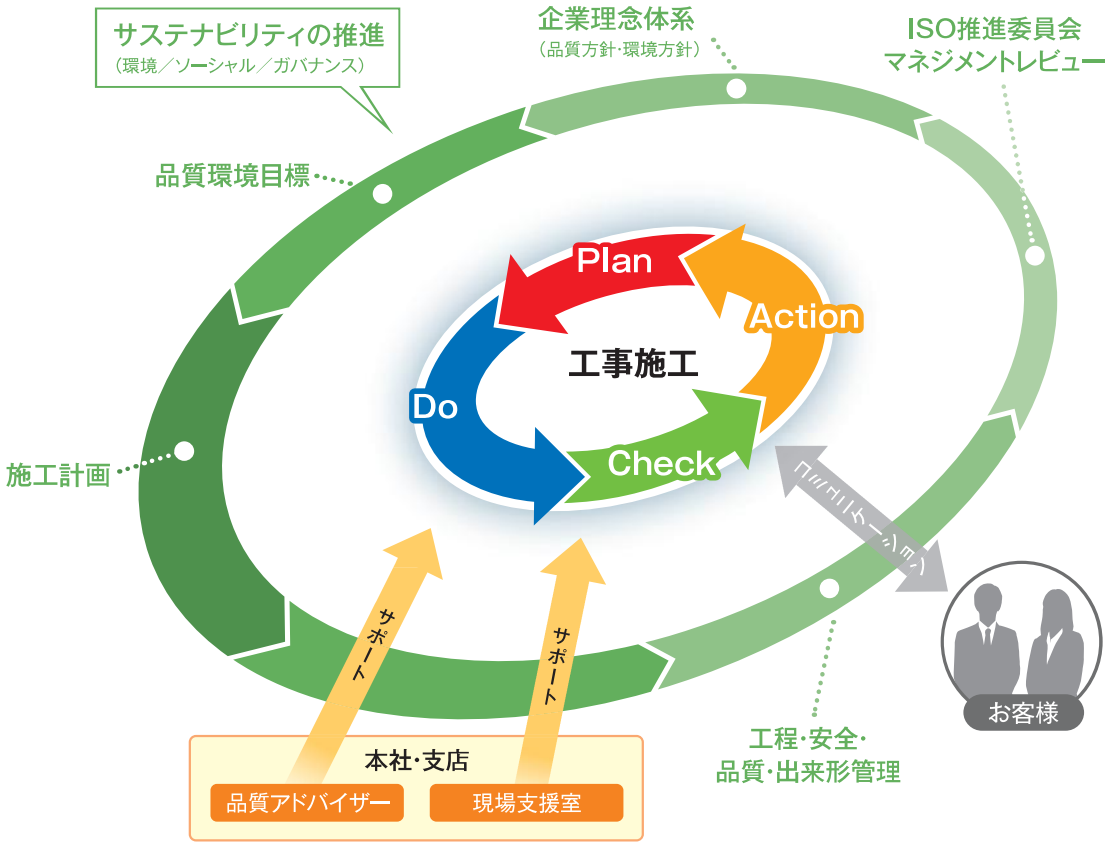




防災・消防訓練

品質・環境マネジメントシステム

ISO9001規格およびISO14001規格に基づく品質および環境マネジメントシステムを運用することにより、品質の向上とお客様の満足度の向上を目指すとともに、積極的な環境保全活動を行っています。



ISO外部監査の受審

当社では、ISO規格の認証継続およびマネジメントシステムのPDCAサイクルを適切に回していくことを目的とし、規格の要求事項への適合性を確認するため、第三者機関（株式会社マネジメントシステム評価センター）による定期的な審査（外部監査）を受審しています。





品質アドバイザー制度

本社土木部品質監理室　本社建築部品質監理室 ⇔ 連携 ⇔ 支店長 ⇔ 直轄

品質アドバイザー
- **目的：**工事の確実な品質確保を目的とする
- **職務：**施工管理に関する助言、問題点の抽出、設計照査、施工計画、工事検討会への参画と助言
- **権限：**支店長直轄

協議 ⇔ 【支店】土木部長／建築部長

助言

現場
- **受注：**工事概要、特記仕様
- **設計照査：**現場不一致
- **施工計画：**施工方法、管理方法
- **工事検討会：**問題点、設計変更、地域性
- **施工中：**施工パトロール（施工方法）
- **検査前：**まとめ方、答え方

⇒ 施工品質の向上 トラブル撲滅

お客様の満足度向上をめざして

お客様のニーズを的確に把握し、ご満足していただける建設サービスを提供するため、受注から引渡し後の各段階において、本社、支店の各部門が一丸となってサポートする体制を整えています。

施工計画段階においては、品質確保や環境保全のための予防処置の検討に注力しています。また、お客様の要望や評価・貴重なご意見をしっかりと受け止め、建設サービスとお客様の満足度の向上に活かすため、それらの情報を全社に展開しています。

国土交通省地方整備局長表彰など

表彰者	表彰件名	対象工事件名	発注年度	受彰対象者
東北地方整備局長	優良工事施工者	1 久慈港湾口地区防波堤本体工事	2025年度	若築建設（株）東北支店
	優良工事技術者			小玉 恭三
	イメージアップ施工			若築建設（株）東北支店
関東地方整備局長	優良工事施工者	2 令和５年度千葉港千葉中央地区岸壁(－９m)(改良)築造工事	2023年度	若築・本間特定建設工事共同企業体
	優良工事技術者			石﨑 睦
	関東インフラＤＸ大賞			若築・本間特定建設工事共同企業体
近畿地方整備局長	優良工事等施工者	3 下島地区南側高規格堤防整備他工事	2024年度	若築建設（株）大阪支店
四国地方整備局長	優秀建設技術者	4 高知港海岸湾口地区堤防（改良）工事（その3）	2024年度	山田 悦治
東京都港湾局長	優良工事	5 新海面処分場（5）Dブロック南側護岸建設工事	2023年度	若築・家島建設共同企業体
	優秀技術者			村上 和也
	優秀技術者			鈴木 健夫


1


1


2


3


3


4


4


5


5

国土交通省地方整備局　工事成績優秀企業

認定者	認定名
東北地方整備局、関東地方整備局、北陸地方整備局、中部地方整備局、近畿地方整備局	令和8年度工事成績優秀企業認定